

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2014年41週 (10月2週 10/6~10/12)

2014年9月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、梅毒、デング熱について、第6回厚生科学審議会感染症部会資料

病原体検出情報

定点医療機関コメント

RSウイルス感染症、溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、手足口病、百日咳、咽頭結膜熱等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(29)、細菌性赤痢(4)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、デング熱(1)、レジオネラ症(1)、ウイルス性肝炎(1)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、後天性免疫不全症候群(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(3)、水痘(入院例に限る。)(2)、梅毒(1)

2014年9月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### RSウイルス感染症(図1)

41週の定点当たり報告数は0.71、40週160人、41週129人(0歳56人、1歳39人、2歳19人、3歳9人、4歳4人、5歳1人、6歳1人)で、2歳未満の報告数が全体の73.6%を占めています。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図2)

41週の定点当たり報告数は0.80、40週167人、41週145人(0.87倍)です。

【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a\\_youren.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

### 梅毒(図3) (6ページ参照)

2014年41週までの累積報告数は86件です。2013年41週までの累積報告数は41件、2013年総計は54件でした。

全国の2014年40週までの累積報告数は1,243件です(2013年総報告数は1,226件)。

【参考ページ】梅毒の発生動向について(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_u\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/dl/260430-01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_u_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/dl/260430-01.pdf)

増加しつつある梅毒 感染症発生動向調査からみた梅毒の動向 (国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-iasrd/4497-pr4095.html>

### デング熱について

【参考ページ】デング熱について(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen-shou19/dengue\\_fever.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen-shou19/dengue_fever.html)

デング熱診療ガイドライン(第1版)について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen-shou19/dl/20140916-02.pdf>

### 第6回厚生科学審議会感染症部会資料

(デング熱・エボラ出血熱等)平成26年10月8日開催

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000060662.html>

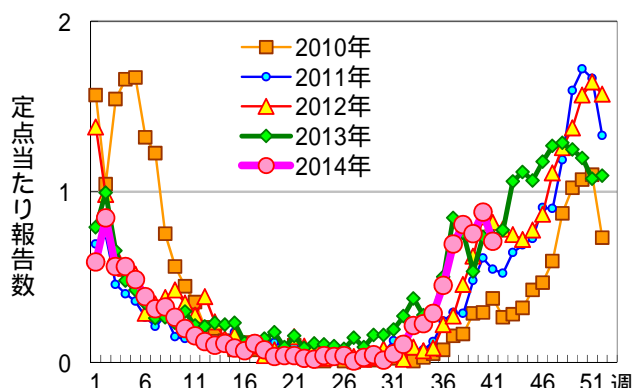


図1 RSウイルス感染症

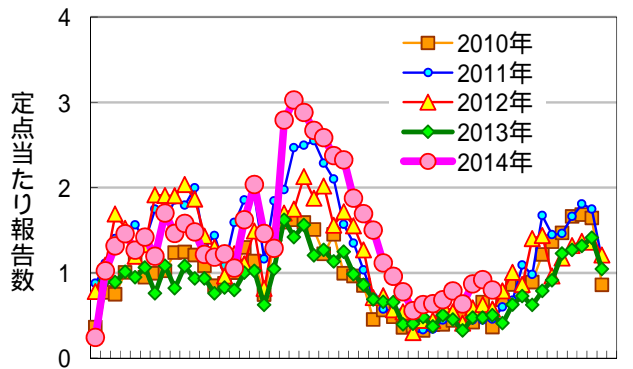


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

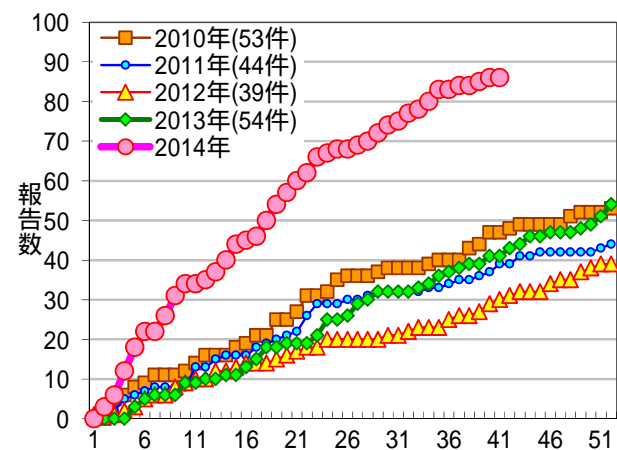


図3 梅毒の累積報告数

(愛知県、2010年-2014年第41週、10月15日現在)

病原体検出情報 2014年疾患別ウイルス検出速報 (2014年10月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	192	43	41	12	29	36	14	195	34(40)
CV-A2	-	-	1	-	-	1	-	-	-
CV-A4	1	2	15	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	3	4	-	-	-	-	-	1(0)
CV-A16	-	24	-	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	-	-	-	-	-	-	-	-	3(0)
CV-B5	-	-	-	-	-	1	-	-	-
E-6	-	-	-	-	1	-	-	-	-
E-11	4	1	-	-	-	11	-	-	-
E-25	1	-	-	-	-	-	-	-	1(0)
E-30	-	-	-	-	-	2	-	-	-
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	55	(1)
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	56	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	52	1(0)
MuV	-	-	-	-	-	1	-	-	-
MeV	-	-	-	-	-	-	-	-	10(14)
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	2(0)
Rota A G1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GI	2	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GII	57	-	-	-	-	-	1	-	-
SV	4	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
Ad-2	5	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-3	-	-	1	5	6	-	-	-	(1)
Ad-4	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-5	2	1	-	-	-	1	-	-	-
Ad-8	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-41	10	-	-	-	-	-	1	-	-
Ad-54	-	-	-	-	1	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
検査中	22	4	9	3	6	5	1	-	1(2)
陰性	89	7	10	1	13	14	11	32	15(21)

\*インフルエンザは2013/2014シーズンの検査結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、E: エコーウイルス、EV-71: エンテロウイルス71型、FluAH1pdm09: インフルエンザウイルスAH1pdm2009、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、HSV-1: 単純ヘルペスウイルス1型、MeV: 麻疹ウイルス、MuV: ムンプスウイルス、NV: ノロウイルス、Rota A: ロタウイルスA、RUBV: 風疹ウイルス、SV: サボウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

10/3分 11歳男 カンピロバクター腸炎	感染症少なく、おちついています。
11歳男 サルモネラO7群	溶連菌感染症 4名
【一宮市 あさのこどもクリニック】	【江南市 みやぐちこどもクリニック】
1歳男 手足口病あり	手足口病 まだみられます。
【一宮市 後藤小児科医院】	【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
B型インフルエンザは家族内の流行にとどまっている様です。5人中4人が罹患しました。	7歳男 溶連菌
【犬山市 武内医院】	1歳男 百日咳がありました。
	【清須市 丹羽医院】
	カンピロバクター腸炎 50代女
	【北名古屋市 田中クリニック】

尾張東部地区

溶連菌、水痘、ヘルパンギーナ、突発疹、散発	RSウイルス感染症が5名(1歳2名、乳児3名)
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】	とやや多かったです。
RSウイルス感染を散見します。	手足口病も目立ちました。
手足口病が増えています。	アデノウイルス感染症 1名(9か月)
【春日井市 春日井市民病院】	【東海市 もしもしこどもクリニック】
9歳男 カンピロバクター腸炎	
目立つものはありません。	
【春日井市 朝宮こどもクリニック】	

西三河地区

イムノエース StrepA(+) 3名	マイコプラズマ感染症 2歳女、5歳男
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】	【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
RSウイルス感染症 散発	サルモネラ菌(O7)と病原性大腸菌(O18、O25・VT陰性) 8歳男
溶連菌 増加中	エルシニア菌腸炎 10歳男
【岡崎市 花田こどもクリニック】	百日咳 11歳男
7歳男 病原性大腸菌O1(+ )VT(- )	【幸田町 とみた小児科】
【岡崎市 にいのみ小児科】	

東三河地区

RSウイルス感染症がいます。	咽頭結膜熱 34歳 女
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】	【豊橋市 富安眼科】
RSウイルス感染 再び増加傾向	
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】	

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2014年10月15日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun140919.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2014年41週報告数			2014年総計(1～41週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	16	4	7	595	165	160
豊田市	3	2	1	63	18	20
豊橋市	1		1	60	18	21
岡崎市				49	20	11
一宮	3	1	1	128	32	41
瀬戸	3		1	114	21	42
半田	1		1	32	14	9
春日井				63	14	13
豊川				49	17	11
津島				52	12	18
西尾				34	15	6
江南	2		1	48	19	9
新城				3	1	1
知多				67	15	19
清須				38	5	15
衣浦東部				80	22	22
合計	29	7	13	1,475	408	418

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	名古屋市	84歳	女	10/2	10/3	10/8	国内
2	名古屋市	43歳	男	10/6	10/6	10/10	国内
3	名古屋市	34歳	男	10/5	10/7	10/11	国内
4	瀬戸	87歳	女	10/1	10/2	10/7	国内

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	47歳	女	10/3	10/4	10/7	O157、VT2(+)
2	半田	8歳	女	10/3	10/6	10/10	O157、VT1(+)
3	豊川	50歳	女	-/-	10/4	10/7	O157、VT1(+) VT2(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	瀬戸	32歳	女	デング熱	マレーシア

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	岡崎市	78歳	男	肺炎型	国内

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	予防接種歴	推定感染経路	推定感染地域
1	半田	31歳	男	B型	不明	性的接触	台湾

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	名古屋市	70歳	男	古典型

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	33歳	男	AIDS	性的接触	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	59歳	男	無	国内
2	名古屋市	1歳	男	有	国内
3	岡崎市	70歳	男	無	国内

水痘（入院例に限る。）（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	津島	19歳	女	無	国内
2	知多	87歳	女	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	瀬戸	21歳	女	早期顕症	性的接触	国内

## 9月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔( )は無症状病原体保有者再掲。〕

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数		2014年9月			2014年	2013年	
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>	
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0	
二類 (5)	結核	89 (23)	54 (15)	143 (38)	1,411 (397)	1,915 (468)	
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	16 (2)	
	腸管出血性大腸菌感染症	16 (4)	5 (2)	21 (6)	109 (25)	211 (58)	
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	
	パラチフス	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	1	2	
	A型肝炎	0	0	0	7	4	
	チクングニア熱	0	0	0	0	1	
	つつが虫病	0	0	0	0	4	
	デング熱	0	1	1	7	14	
	マラリア	0	0	0	1	8	
	レジオネラ症	5	0	5	41	64	
五類 (18)	アメーバ赤痢	2	1	3	53	62	
	ウイルス性肝炎	1	0	1	10	16	
	内訳	B型	1	0	1	9	7
		その他	0	0	0	1	9
	急性脳炎	0	1	1	16	25	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	8	10	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	1	12	8	
	後天性免疫不全症候群	1	7	8	79	99	
	内訳	無症候性キャリア	1	5	6	53	64
		AIDS	0	2	2	25	33
		その他	0	0	0	1	2
	ジアルジア症	0	0	0	1	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	0	0	0	12	13	
	侵襲性髄膜炎菌感染症*	0	0	0	2	0	
	侵襲性肺炎球菌感染症*	4	2	6	84	76	
	水痘(入院例に限る。)**	1	0	1	1	-	
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	2	
	梅毒	1	1	2	85	54	
	内訳	無症候	0	0	0	40	25
		早期顕症	1	1	2	40	24
		晩期顕症	0	0	0	5	5
	破傷風	1	0	1	2	5	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	6	
風しん	0	0	0	17	375		
麻しん	0	0	0	46	25		
総 計		123	72	195	2,011	3,022	

\* 2013年4月1日から、五類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患( )を除く細菌性髄膜炎については引続き基幹定点把握対象疾患です。同じく五類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

\*\* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年9月			2014年 累計	2013年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	88	61	149	1,211	1,746
	性器ヘルペスウイルス感染症	35	13	48	487	707
	尖圭コンジローマ	21	12	33	281	382
	淋菌感染症	22	37	59	526	708
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	70	9	79	853	1,212
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0	5	40	84
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	4	9
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年9月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年9月19日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症* (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症** (2疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。  
 \*\* 2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。  
 2014年7月26日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」が指定感染症に追加されました。





